

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	信州大学・小諸市産学官連携協議会事業による 海外インターンシップ		
学部・研究科名	繊維学部、工学部		
実施期間	2014年9月15日～2014年9月19日		
研修先(国・都市・施設名)	ベトナム（ホーチミン市） 訪問先： JETROホーチミン事務所、ホーチミン工科大学、NIDEC SANKYO VIETNAM CO., LTD.、NIDEC SEIMITSU VIETNAM CO., LTD.、VSIP工業団地、FUJIKURA FIBER OPTICS VIETNAM、DDK VIETNAM CO., LTD.、YUWA VIETNAM CO., LTD.、戦争証跡博物館、統一会堂など		
参加者数	10名	知の森基金からの支援者	7名
プログラム概要	日本の若い学生が、世界規模で展開する産業や経済の動きを理解し、それへの対応を迫られる環境の中で、日本企業の進出が進み躍動が著しいアジアの新興国の一つであるベトナムの実情を見聞し学ぶことの意義は大きい。昨年度に引き続き、信州大学・小諸市産学官連携協議会が実施する本事業では、ベトナムにおける日本をはじめ欧米各国企業の活動状況、ベトナム国策による大規模工業団地の建設に伴って将に新しい街が築かれつつある現場等、今しか見ることのできないものを見逃さず体験し学習することをねらいとしている。この趣旨に沿い、信州大学・小諸市産学官連携協議会の事業に参加する地元小諸市の企業である懶ユウワの全面的な協力を得て、同社ベトナム工場での実習のほか、新鋭のベトナム・シンガポール工業団地（VSIP）内に拠点を築いている日本電産サンキョーベトナムなどの企業の工場見学や、新都市開発を進めている行政機関事務所の講話、日本金融機関地元支店長等によるベトナム経済に関する講話およびベトナム国家大学ホーチミン市校工科大学の訪問、交流などの総合的な研修を行う。		

実施状況・成果

今回の海外インターンシップは、昨年に続き2回目ということで昨年参加した先輩の評判から参加を決めた学生や教授からの勧めや大学の掲示を見て応募した学生が集まりました。繊維学部4名、工学部6名の学生から成り、海外に行くことが初めてで、このインターンシップのためにパスポートを取得した学生が半数近くいました。応募の動機は当初、安く海外旅行が出来るといったものもありましたが、本研修を通して学生本人にとって予想以上の様々な収穫があったと確信します。研修はハノイに到着した日にジェトロでベトナムの経済状況の説明を受け、翌日のハノイ工科大学訪問でのベトナム人学生との交流や二日間に渡る日本の現地法人の工場および工業団地開発会社、東急のマンション開発事業の見学、さらに日本食レストラン経営者の講演など盛りだくさんの内容でした。

工場見学では各会社の現地法人の社長が自ら説明および質疑応答に当たられ、学生にとっては経営者と直接話をする良い機会になっていました。学生と現地法人の社長とのやり取りから、人件費を抑制するためだけに海外に事業所を展開しているわけではなく、日本国内需要だけでなく世界需要を満たすために海外に進出し、事業を拡大しなければ生き残れないという厳しい一面が示されました。また、工場の規模の大きさに驚かされましたが、その工場では若いベトナム人が多数生産ラインに張り付いて細かい作業を行っており、豊富な若い労働力がベトナムの経済発展の強みとして感じられました。さらに人件費を下げるために製造ラインの自動化にも取り組み、工場の職場環境の見直しを全従業員から募集し、徹底した無駄の削減と意識の向上をベトナム人社員とコミュニケーションを取りながら行い、社員に好かれる会社を目指していると感じました。そのような環境の中で日本人社員がどのような役割を求められるかという点は非常に重要であり、実際、ベトナム人の従業員数と比較して、非常にわずかな人数で日本人社員が指導者的立場で業務に当たっていました。少数精鋭で仕事を行っている中で学生のインターンシップのために貴重な時間を割いていただいたことを感謝しております。研修に参加した学生も特別な時間を過ごしたと感じていると思います。今回の研修のもう一つの試みとしてベトナム人学生との交流がありました。大学訪問時の顔合わせでは日本に興味のある学生が集まり、日本語と英語を交えたコミュニケーションを取っていました。市内観光や昼食などをともにし、さらに親睦を深めることができました。最後のお別れパーティの席で、ユウワ・ベトナムの飯高社長より「点を作る人と面を作る人」のお話をいただき、何でもいいから一つ秀でた技術者を目指して、点をどこまでも高くして欲しいと学生たちを激励いただきました。

最後に、今回の海外インターンシップを企画立案された信州大学・小諸市産学官連携協議会の皆様、(株)ユウワ渡辺会長、現地での見学等全てをアレンジして頂いたユウワ・ベトナムの飯高社長はじめ社員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

学生の声①- 総合工学系研究科 学生

このインターンシップは海外留学や駐在に対しての実感を沸かせてくれる非常に有意義なものでした。ホーチミン工科大学では向学心に溢れる学生と交流し、私の勉強に対する姿勢を改める良い刺激となりました。さらには、通常立ち入れない日系ベトナム企業の見学およびそこで働いている駐在員の方と交流させていただきました。海外で日本企業がどのように機能しているのか、そこで日本人がどのように働いているのかを学ぶことができました。今回の経験を通して、留学や駐在に対して感じがちな壁がなくなり「ぜひ海外で勉強したい、働きたい」と感じるようになりました。海外の学校もそして企業も知ることができるのは産学連携の取り組みだからこそできることです。このような取り組みがもっと広がり、より多くの学生に機会が与えられと感じています。

学生の声②-理工学系研究科 学生

今回、ベトナムという国を訪れてみて、非常に勢いのある国だと感じた。様々な企業が進出する工業団地の広さも非常に大きく、日本では考えられない大きさであった。ホーチミンの中心街を見ると高層ビルが立ち並び、一大都市が築かれている。しかし、少し郊外に出ると、まだローカルな雰囲気が残っており国の発展の著しさが垣間見えた。私がこのインターンシップで一番印象に残ったことは、ベトナムに展開している工場内を見学出来たこととこれから都市が作られるという現場を見ることができたことである。工場内では、日本では見られないような光景が広がっており、初めて工場内に入った時は衝撃だった。我々が普段何気なく使用している製品の製造の裏側を見ることができてよかった。また、まだ更地の土地に新たな都市が築かれるということは、にわかに信じがたいことである。しかし、現状のベトナムでは実現可能な計画であることがわかる。近い将来、私達もベトナムで仕事をするところがあるかも知れない、今回のインターンシップを通しベトナムという国の実情を知ることができ、自分の今後の生活に大変参考になる経験だったと思う。参加して本当に良かったと思った。

統一会堂を見学

